

Computex Taipei 2019 視察研修報告

日程 2019年5月29日(水)～6月1日(土)

参加者 11名 (視察団長 野口剛史) 近畿支部



Computex Taipeiはアジア最大級のICT関連の専門展示会で、今年は5月28日(火)～6月1日(土)の5日間開催されました。近畿支部では5月29日(水)～6月1日(土)の例年より1泊多い3泊4日で視察研修を実施しましたので、下記の通り報告致します。

会場は大きく分けて2つのエリアに分かれており、信義地区では世界貿易センターのホール1、台北国際会議センター、南港地区では南港展示センターのホール1、ホール2で行われ、出展社数1,685社(5,508ブース)、171カ国・地域から42,495名の海外バイヤーが訪れたとのことで、海外バイヤーの上位10カ国・地域は、中国、米国、日本、韓国、香港、タイ、シンガポール、ドイツ、マレーシア、インドの順であったとのことです。

今回の展示の5大テーマは「AI& IoT」、「5G」、「ブロックチェーン」、「イノベーション&スタートアップ」、「ゲーミング&XR」で、これらに関連する製品出展及びイベントが行われました。

1日目は、台北桃園国際空港に到着後、世界貿易センターに向い、イノベーションとスタートアップに特化したエリア「InnoVEX」を見学することにしました。ここでは例年通りピッチコンテストが行われており、今年の賞金総額は42万米ドルに達したそうです。

2日目、3日目は自由行動で、各自が興味のある会場を回りました。台北南港展示センターのホール1では、「システム&ソリューション」、「ゲーミング&XR」、「コンポーネント&高度パワーテクノロジー」、「ストレージ&データベース・ソリューション」、「産業用

IoT&組込みソリューション」、「iStyle」、ホール2では、「SmarTEX」、「サイバー・セキュリティ&映像監視システム」、「タッチ・アプリケーション&ディスプレイ製品」、「スマート・リテール&ビジネス・ソリューション」、「コミュニケーション&ネットワーク」、「モバイル機器アクセサリ」、「コンピュータ周辺機器&アクセサリ」、「カントリー・パビリオン」が展示されていました。

4日目は台北市観光を行い、帰国の帰路に付きまして。

Manus Robotics

障害者の生活品質を向上させ、自立した生活を支援するウェアラブルデバイス(Grip-X)の展示、およびデモンストレーション。Computex Taipei視察の目的として考えていた、生活支援のためのソリューション、ウェアラブルデバイスの情報収集に沿った内容で、筋肉の動きなどでアームをコントロールする仕組みが新しかった。



(株)ネクステッジテクノロジー

タッチレスインターフェイスaeroTAP(エアロタップ)の展示。画面に一切タッチせずに操作出来るというI/Fが新しく、また既に医療方面では実用化もされており実績もある。3Dカメラが用いられており、それをPCに接続するだけで既存のアプリケーションをそのままタッチレス化する事が出来るので導入し易く、また様々なシーンでの活用も見込まれる。



Lockists

バイクシェアリング用のプラットフォーム。貸す側が時間と価格を設定し、探す側がアプリで最寄りの空き車両を検索することが可能。アプリでロックを解除し、リース開始される。日本でも、カーシェアリングは徐々に普及し始めている印象だが、まだまだ馴染みのないバイクシェアリングサービスであること、鍵型のデバイスによる、より利便性の高いサービスを提供しようとしていることに興味を持った。



iPeto

ペット用のトイレをスマート化し、自動洗浄、ヘルスデータのクラウドへのアップロード、ヘルスデータの監視やデータ分析を実施。スマホやPCから健康に対するアラートなどを確認可能。トイレを自動的に清潔に保ち、病気の早期発見が可能であること、遠隔で監視/確認できることから、ただ便利だけではなく、高齢化社会において、お年寄りが飼うペット用にも最適だと感じた。



(株)コー・ワークス(Co-WORKS)

Tibbo-PiというIoTデバイスとその応用例の展示。全てを自社で作っているのではなくTibbo Technology社の製品とRaspberry Piといった既製品を組み合わせる事で導入コストの低減が図れている点やお手軽に感じられる事が1つの製品として優れていると感じた。またモジュールブロックを自由に組み合わせて必要最小限のシステムが構築でき、プログラミングにおいてもNode-REDというビジュアルプログラミング言語を用いる事でハードとソフトの関連性が分かり易くイメージし易い仕組みになっているのも非常に良いと思う。



(株)SYNKOM

EdgeAIのデモ。USBカメラとAvnet社製の評価ボード(Ultra96)を用いて、高速で走る赤と黄色の2台のミニカーを撮影し、評価ボード上のFPGAでAIにより画像解析を行い、2台をそれぞれ判別し、クラウドにアップ。手元のタブレットで確認可能。恥ずかしながら、AIによるデータ分析はクラウド側で行うイメージ(=クラウドAI)だったが、EdgeAIという概念を本展示で知ることができ、端末処理のメリットである通信データの削減が、通信量増大の課題に対する解決策のひとつであることが実際に見て理解できた。出展内容自体は簡易デモであったが、見た目にも分かり易く、非常に人気があった。



ASUS

PCおよびPCパーツ、スマートフォン、周辺機器の展示、およびソリューション提案(ソリューション提案は壁に描かれたイメージ図での提案)。Computex Taipeiを象徴するような規模、デザインのブースで集客も非常に多く、展示内容もシンプルかつスマートで見やすかった。



QCT(Quanta Cloud Technology)

大容量のエッジルータ/コアルータの展示。5G対応のコア側の負荷増大に伴う大容量化において、どの程度の性能が必要なのか、具体的に製品を見て確認できた。



まとめ

参加者より下記の感想が寄せられました。

- Computexは駆け足で回ったものの、製品の技術動向を実感することができた。翻訳機を介した現地の方とのリアルな会話を体験できたことは良い経験になった。
- 海外の展示会に参加するのが初めてで、参加する機会がほとんどないので参加することが出来てよかった。ただ海外の展示会なので、日本語が通じる企業がほとんどなく、日本語が通じない企業は目で見て雰囲気を感じることが出来なかったのが残念でした。次回参加できる機会があればリスニング面だけでももう少し勉強してから行きたいと思った。
- Computexは国内の展示会に比べて派手で言葉がわからなくても見るだけでも楽しめた。英語ができ展示者ともコミュニケーションがとれれば新たな発見や刺激になり、なお良かったと思う。海外自体が初めてであり楽しめないかと思っていたが、台湾(台北)という土地が意外と日本語が通じたためと楽しめた。
- 初の海外視察で、新しい経験、出会いなど、新鮮な刺激をたくさん得ることができ、有意義な視察になりました。出発前は、IoT、AIを用いたソリューション、医療や生

- 活を支援するウェアラブルデバイスの情報収集を目標として考えていましたが、実際参加しての感想は、PCや周辺機器などハードウェア(もの)の展示が中心で、ソリューションやサービス提案(こと)などはそこまで多くない(あってもパネルでのイメージ展示)という感想を持ちました。「特定分野に特化して情報収集」にはあまり向かない展示会だと思いましたが、最先端のさまざまなデバイスを見て、触れることができる機会はありません、従来の視察目的とは違っても、興味を感じ、ワクワクする展示内容は多く、単純に楽しい展示会だと感じました。自分は情報収集時に言葉の壁を強く感じたので、次回同じ機会がある場合、次の参加者にはその辺りを含めたアドバイスをしっかり行い、さらに有意義な機会とできるよう努めたいと思いました。
- 展示会でのAIによる顔認証システムの技術進歩が目を見張るものがありました。来年も日程調整がつけば参加したいと考えています。
 - 特に目新しいものは無かったが、3日間の期間でほぼ全て見る事ができた様々な知見を広く浅く得ることができた。言葉が通じないので、質問することができなかったことが残念。
 - 展示されている内容は日々の業務で携

- わっている分野とは違っていた為あまり馴染みが無く分からない事が非常に多かったです。ただ"盛り上がり"や"熱"といったものは強く感じられ、それは自分自身にとっても刺激になりました。即座に日々の業務に何かを活かせる訳ではないかもしれませんが、後々「そう言えばこんなサービスがあった」等、ほんの少しでも活かすことが出来ればよいと思います。またJASAの他社の方々と関わる事がこれまでなかったので短い期間でしたが少しでも親睦を深められて良かったです。色々といっくるめてとても楽しい視察研修でした。
- 展示会の視察も海外出張も初めての経験でしたが、非常に楽しく充実した4日間でした。様々な既存技術や最新技術を組み合わせられた展示が多く、熱気に溢れており、大変刺激になりました。本視察旅行で得た経験や知識を活かし、より視野を広げた価値創造に繋げていきたいと思っています。
- 初の海外出張で、言葉の壁を感じられた方が多かったようですが、参加者との会社を越えた交流や情報交換ができた事がとても有意義で、今後の活動においてもお互いに切磋琢磨し、協力しあっていきたいとの声も多かったです。今後の支部活動などでの再会の機会があれば幸いです。